
サービス業

11. 化学物質を使用しない清掃作業（株式会社 ボイス）

取組の概要

弊社は、日常清掃作業に洗剤を極力使用せず、自社で購入した生成装置によって作った、ナノバブルを充填させたアルカリ電解水を用い、「化学物質の排出量を減らす清掃業務」にとりこんでいます。



清掃前

清掃後

（洗剤無でここまで綺麗になります）

取組を始めた動機・課題

- ① すぎが不要なので、従業員の生産性向上、作業負担軽減。
- ② 洗剤を使用しないので、化学物質を排出しない管理の実現。従業員の安全・安心。
- ③ 自社生成して洗剤コスト削減。

解決に向けた具体策と成果

実例の紹介、使用方法（希釈方法等）の指導、メリットの教育を継続的に実施し、現在20L容器で年間1500缶使用しています。理論値ですが、弊社の基準的な20L洗剤換算で、200缶程度削減できました。

該当するSDGs目標
（3つまで）



12. 検索エンジン「ECOSIA」を使う(株)日本コンピュータコンサルタント)

取組の概要

日頃パソコンやスマホで使用している検索エンジンを「ECOSIA」(エコシア: <https://www.ecosia.org/>)に変更する取組みを社内展開しています。ECOSIAは収益源である広告収入の80%を非営利団体WWF(世界自然保護基金)に寄付しており、日常業務で検索を行うだけで、自然保護に寄与する活動になります

Web検索45回=1本植樹



取組を始めた動機・課題

ECOSIAで約45回検索するごとに1本の木が受けられ、これまでに1億本以上の植樹が実行されているとのことで、弊社はITサービス業で日常的にPCを利用したWeb検索を行うため業務利用頻度も高く、検索エンジンとしての性能や安全性も問題ないため採用。ただ、顧客先PC使用などで制限のある社員などには強制はできません

解決に向けた具体策と成果

ブラウザの設定で既定の検索エンジンをECOSIAに変える、もしくは拡張機能を使用すれば、アドレスバーを使った検索や既定ブラウザにECOSIAを設定できます。ECOSIAのスマホアプリもあり、活用可能です。まずは管理部門で運用し、取組みを社員に紹介することで、社員の自発的な自然保護への関心の和が広がります

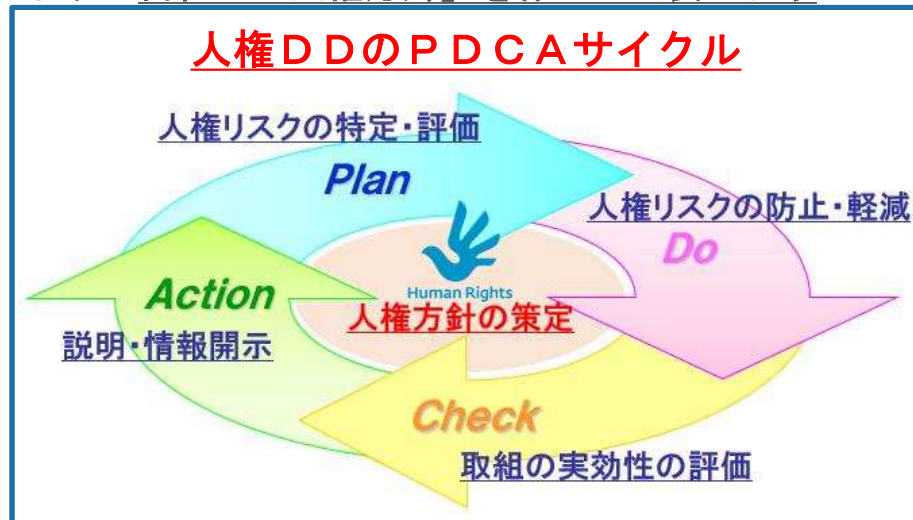
該当するSDGs目標
(3つまで)



13. 人権デュー・ディリジェンスの実施（株）日本コンピュータコンサルタント

取組の概要

日本政府や国連が推奨する「ビジネスと人権に関する指導原則（以下、指導原則と呼ぶ）」を支持し、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現に向けて、「ビジネスと人権」に関する理解促進と意識向上、人権尊重を促進する仕組みの整備と救済メカニズムの整備および改善を行う。
まずは自社の「人権方針」を作って公表しよう！



取組を始めた動機・課題

自社内でのハラスメントを防ぐルール、相談体制の整備を行うなかで、安心して働ける職場環境作りのためには、もう少し大きな視野での人権尊重に関する方針の策定や人権デュー・ディリジェンス（人権DD：人権リスクを特定・分析・評価して適切な対策を策定・実行するプロセス）の実施が必要ではないかと考えた

解決に向けた具体策と成果

「指導原則」に基づき、以下の企業方針と手続きを規定することで人権尊重の内外への周知を行う。

1. 人権方針の策定（↓自社HPでの公表）まずはコレ！
<https://www.n-c-c.co.jp/wp-content/uploads/HR.pdf>
2. 人権DDの実施（リスクの特定・分析・評価）
3. 救済メカニズムの構築（是正処置・教育）

該当するSDGs目標
（3つまで）



14. 人材紹介で経済成長と途上国の支援を！（日本ミャンマー支援機構株式会社）

取組の概要

人材不足の中小企業に、日本へ出稼ぎに来るミャンマー人を紹介している。

日本の地域の発展と経済成長を促し、ミャンマーでの貧困削減や後発開発途上国への支援をしている。



取組を始めた動機・課題

社長がミャンマーから難民として日本に来日してから、日本に出稼ぎを希望するミャンマー人から多く相談を受け、株式会社として取組を始めた。

解決に向けた具体策と成果

人手不足の地方の中小企業へミャンマー人を紹介し、日本の経済成長を促した。また、ミャンマー人の雇用創出機会を増やし、貧困削減や後発開発途上国への支援を行った。会社を創設してから10年で約140人のミャンマー人に就職支援を行い、その周りの1400人のミャンマー人の経済的豊かさの発展に貢献した。

該当するSDGs目標



15. 女性のライフワークバランスとスキルアップの実現！（株式会社TIARE）

取組の概要

女性が長く働けるようスキルアップ計画や研修を実施。当社が掲げている【女性の自立】をテーマに目標設定シートや社内研修動画を配信し、1人1人が自分のタイミングで学べる環境を徹底的に構築していきました。また社内会議でスキルアップの取り組みの発表をし、みんなで共有することにより、全員でサポートができるよう環境づくりにも配慮しています。



取組を始めた動機・課題

代表自身が出産・社会復帰したときに子育てをしながらのスキルアップの困難を経験しました。

解決に向けた具体策と成果

成長期の若い従業員や子育てをしながらもスキルアップしたい従業員はスキルアップ目標。
子育てや介護に時間を使う従業員はサポートが目標と個人のワークバランスを元にスキルアップを実現できている。実際に時短社員雇用で時間の確保とマネージャー・店長は子育て中のママです。

該当するSDGs目標
(3つまで)



16. 循環ぷらっと（株式会社BPLab）

取組の概要

循環ぷらっと

繊維製品回収BOX設置に加え、そのスペース化でぷらっと参加を促進するイベントプランです。その実施効果、取組み易さが皆さんからの評価につながっております。



取組を始めた動機・課題

繊維製品の循環では回収を進める必要がありますが、単に回収ボックスを置くだけでは難しいという課題があります。この活動が何になるのか？ 回収したものが何に再生されるのか？ “見える化”してゆくことが大切と感じたのが、これを始めた動機です。

解決に向けた具体策と成果

22年11月、イオンモール倉敷様で開催。また繊維再生素材で作るペンケースなどのワークショップも同時に行う。結果、参加者から関心を持っていただき、1週間で600キロという回収実績となる。このイベントは月末まで開催で、2トン程度が最終実績になる予定。回収や取組み理解が進んだ。

該当するSDGs目標
(3つまで)



17. 神奈川県版SDGsボードゲームを活用したワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

SDGsに取り組んでいる企業・団体・自治体の実際の実践事例をもとに、神奈川県版SDGsボードゲームを制作した。中学校・高校の探究の授業や、企業・商工会議所・法人会等でワークショップを実施している。コロナ禍でも対応できるよう、オンライン版SDGsボードゲーム（全国版）も活用している。



取組を始めた動機・課題

企業や自治体の皆さまから、SDGsに取り組みたいが、何から始めたら良いのか分からないという課題がある。また、学校でも、探究学習授業の中で地元の具体的な活動事例を知りたいニーズがあり、神奈川県内で取り組まれているSDGs実践事例を伝えたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

ボードゲームで神奈川県内の実践事例が学べ、受講後は、自分達に取り組む一歩が見出せたとの意見が多く聞かれた。受講した学校からは、地元でも知らなかった多数の事例があり、より地域活動に目を向け、参画する行動に繋がった。事例協力企業と学校のコラボレーションも生まれた。

該当するSDGs目標



18. 海岸フィールドワーク＆「海ごみ」を考えるワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

「海のごみ」はどこから運ばれてくるのか、綺麗な砂浜の中はどのような「ごみ」が含まれているのか、海岸フィールドワークを通し、現場で学ぶ。更に、仕事と暮らしの2つの観点から「海ごみ」を考えるゲーム体験を行う。目で見た事実から行動に繋げる体験型ワークショップで実践力を身につける。



取組を始めた動機・課題

海岸清掃活動は盛んに行われているが、「ごみ」を生み出さない社会を目指さなければ「海ごみ」は無くならない。一見綺麗に見える海岸にどのような「海ごみ」があるのか、採取体験をすることで深刻な状況を知る。自身の行動が環境にどのような影響を及ぼすか、ゲーム体験を通じて体得し、行動の変化に繋がりたい

解決に向けた具体策と成果

街から川、川から海に清掃活動を実施すると「ごみ」の特性が理解できる。地元NPO団体と協力し、フィールドワークを充実させ、参加者の知識、事実認識効果を上げた。参加した小学生も砂の中に含まれているマイクロプラスチックの量に驚き、自分が行動することで周りを巻き込みたいと理解を深めていた。

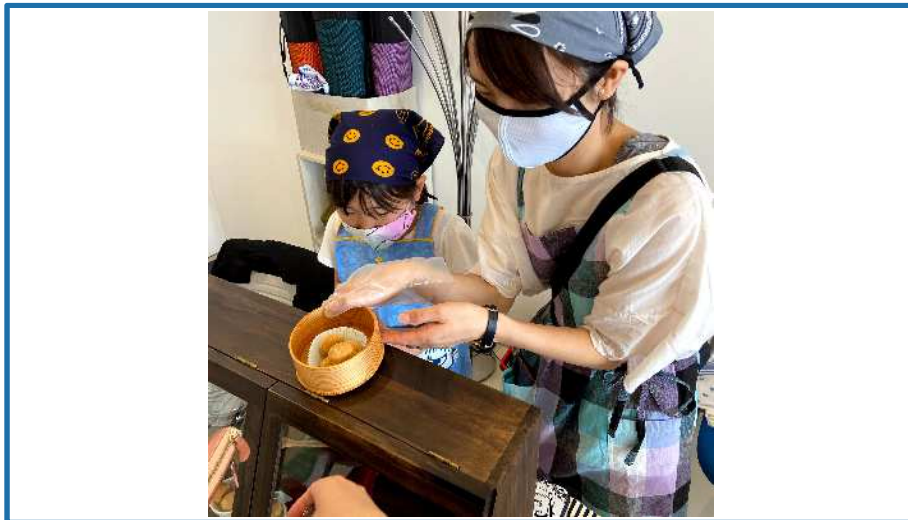
該当するSDGs目標



33. なるべくゴミを出さないマルシェの開催（エコルシェ横須賀）

取組の概要

地域で一番エコなマルシェを目指して立ち上げ。
地域のお店の商品を個包装せずに販売していただき
お客さまは持参した容器で商品をお持ち帰り。
イベント自体のゴミも減らす工夫をしています。



取組を始めた動機・課題

海のゴミは街から来ていることを知り、ポイ捨てを
しないだけではなくそもそもゴミとなるものを発生
させないことが大切だと思ったため。

解決に向けた具体策と成果

「なるべくゴミを出さない」が出店の条件。
それまで無意識にプラの袋に入れて売られていた商
品の売り方を考えることで、お店の人の「プラごみ
」への意識も変わった。同業同士、情報交換などが
できるようになった。

該当するSDGs目標

(3つまで)



34. ゴミを出さない！に特化したイベントの開催（エコルシェ横須賀）

取組の概要

「なるべくゴミを出さない売り方をする」
これが出店の条件のマルシェを2021年4月より毎月開催しています。売る側も”持ち帰った後にゴミを出さない”売り方を考え、買う側のマイ容器（タッパー等）持参率は80%を超えています。



取組を始めた動機・課題

海洋プラスチックゴミ問題が自分たちの生活に直結していることを知り、そもそも使い捨てプラスチックを自宅に持ち込むことを減らしたかったことと、横須賀で一番エコなマルシェを作るために始めました。

解決に向けた具体策と成果

最初は「マイ容器」を持って買い物に行くということがあまりピンと来ていない方も多かったですが、数を重ねるごとに関わる人みんなの意識レベルが上がっているのを感じています。会場は集客に繋がり、参加企業はSDGsへの取り組みにも直結します。

該当するSDGs目標

(3つまで)



38. FujisawaBluehandsProject(フジサワブルーハンズプロジェクト) (藤沢市資源循環協同組合)

取組の概要

FujisawaBluehandsProjectとは藍染め(手も青く染まります)を通じて藤沢の独自ブランドを創出し、雇用創出や地域活性化を図ります。藤沢市内業者で衣類等のデザイン及び提供を(有)ラファイエットが行い、(株)アートモリヤの指導のもと、染色作業と場所の提供を藤沢市資源循環協同組合が行います。市内事業者が染色された衣類を制服として使用し、藤沢市がこの取組についての広報及び周知を行います。



取組を始めた動機・課題

藤沢市とラファイエットがもともと取り組んでいるFUJISA CITY LOVE PROJECTに賛同し、古い衣類等を藍染めし、リユースすることでごみの減量化につなげ、染手を障がい者に担ってもらうことで、雇用創出を図り、染色した衣類等については、市内企業の制服として提供し、将来的に一般向けの販売を行い、藤沢市のシティプロモーション活動に寄与します。

解決に向けた具体策と成果

【プロジェクトに参加する事で】

- (障がい者雇用) 染手を障がい者に担ってもらうことで、雇用の創出を図ります
- (伝統工芸) 藍染の文化の継承につながります
- (環境配慮) 古い衣類等を藍染し、リユースすることでごみの減量化につなげます

該当するSDGs目標
(3つまで)



39. 業務電子化によりペーパーレスと業務効率化（藤沢市資源循環協同組合）

取組の概要

IoTを駆使したシステム（BIOISM社）を導入することにより、業務効率化を図る。回収車両に搭載したタブレットと事務所パソコンの連携により回収状況や現在地を事務所でリアルタイムに知ることができ、ルート通りに回収しているか等を確認し、フォローすることができるため、取りこぼし等のリスクを下げることができます。



取組を始めた動機・課題

昨今、回収従事者が病欠（新型コロナウイルス等）で欠員した場合、常時回収作業にあたっている者が休まざるを得ない状態となり、回収業務においてはコースを覚えていない者が休んでしまうと収集自体が困難になる事を避けるため、IoTを駆使したシステムを導入する事により回収エリアや回収ルートを登録し、タブレットに表示しコースを覚えていない人でも収集することができ、事務所でも情報共有できかつBCP対策にもなる。

解決に向けた具体策と成果

【スマートな業務対応の実現】

回収状況がリアルタイムで更新、一目で情報共有が可能となる。また、回収従事者のタイミングで情報を取得でき、回収対応が可能となる。

該当するSDGs目標
(3つまで)



40. 独自のサステナビリティ取り組みプランの実行(株式会社林水泳教室)

取組の概要

自社グループでのSGDsに貢献する活動を「スマイルアクション」と名付けて項目を設定し、各拠点単位で実行を開始した。

取組を始めた動機・課題

従来から省エネ、地域活動は行ってきたが、部署・拠点単位での一過性の取り組みが多く、取組みの内容も共有されていなかった。

ハヤシグループはCSV推進に取り組みます
 CSVとは仕事を通じた社会貢献です
 CSVは、「Creating Shared Value (共創価値の創造)」の略称です。社会課題の解決と企業の利益、両立が実現できれば、社会と企業の双方に価値を生み出す取り組み(を指します)を指します。つまり本業での社会貢献を実現するための考え方で。

はじめよ!『スマイルアクション』サステナビリティ行動計画
 ハヤシグループのCSV活動
スマイルアクション
 ~みんなをえがおへ、みんなで笑顔を~
 ハヤシのCSV活動は「えがお」「楽しむ」「できることから」がモットーです。

はじめよ!『スマイルアクション』今すぐできる取り組み項目
 業務の中でCSVにつながる事をピックアップしました。目標達成に向けて各職種、職場で実行しましょう。

解決に向けた具体策と成果

業務における省エネ、省資源、エコ活動を全社的な活動とする事で社内浸透を図ると共に、スケール感により企業イメージの向上の訴求効果を高めることが出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



41. 自社施設周辺のクリーン活動(株式会社林水泳教室)

取組の概要

茅ヶ崎、藤沢、鎌倉のグループ各拠点において、業務時間中に従業員による周辺の清掃活動を実施している。



取組を始めた動機・課題

これまで茅ヶ崎の海岸エリアの清掃を行ってきたが、所属するエリアや業務の都合等で参加者が限られていた為、参加しやすいフレームを構築したいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

拠点ごとに独自に計画を策定して実行する形とした。実施の際は制服を着用、SNSで発信する事で活動を周知しており、地域住民とのコミュニケーション促進に寄与している。

該当するSDGs目標
(3つまで)



42. 市民皆泳で水の事故防止に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

水泳の啓発と水難事故防止の観点から市営プールを利用して、水が苦手な子どもを対象にした水泳教室と親子で参加する着衣泳教室を開催した。



取組を始めた動機・課題

コロナ禍で小中学校での水泳授業の中止が続いており、子ども達が水と親しむ機会が減ってしまった。

土地柄、海や水辺での水難事故の懸念もあり、安全に楽しむための啓発が必要との認識があった。

解決に向けた具体策と成果

水が苦手・泳げないといった子ども達に水と触れ合うきっかけを作ることが出来た。

着衣泳教室では、命を守るための備えを親子で学ぶ機会を提供した。いずれも参加無料とし、150名超の市民が参加した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



43. 中学生の職場体験で次世代人材の育成に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

地域の中学校生徒の職場体験の受け入れに協力し、未来を担う子供たちの勤労観・職業観の育成に貢献した。



取組を始めた動機・課題

コロナ禍を経て3年ぶりに地域の公立中学校から要望があった。生徒が将来の仕事のイメージや興味のある分野への知識、理解を深める機会であり、地元企業として積極的に協力したいと考えていた。

解決に向けた具体策と成果

今年度は定員を超える参加希望があり、7校15名を受け入れた。参加者からは、体験後の報告や手紙で中学生らしいあたたかい感想・メッセージが寄せられた。また、社内の活性化や会社のイメージアップ、子どもの意識の把握等様々なメリットがあった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



44. 紙の運用改善、デジタル化でペーパーレスを実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

紙取り扱いのルール改善、デジタルツールの導入など様々な取り組みで紙の使用量削減に取り組んだ。



取組を始めた動機・課題

大量に発生する申請書、文書等の取り扱いに伴う保管、廃棄が問題になっていた。また、紙からデータへの入力ミスなどが起きていた。コロナ禍における社内インフラのデジタル化推進も追い風となり、文書削減に取り組む事となった。

解決に向けた具体策と成果

プールでのWi-Fi環境を整備し、タブレット端末でのデータ入力に移行した。印刷方法と枚数の徹底した管理工夫、社内啓発で紙の量を抑えコストを削減した。入力工数とミスの削減、ワークフローシステム導入、ミーティングや顧客向けの説明会等をオンライン化、帳票類と文書管理の電子化を実現した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



45. ハンカチ持参の呼びかけで紙タオルの削減を実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

スクール生に、手洗い用ハンカチの持参を呼びかける事で、ペーパータオルの利用を大幅に削減できた。また経費の削減にもつながった。



取組を始めた動機・課題

教室への入室時、おやつ前、トイレ時に手洗いをするルールとしており、施設側で用意したペーパータオルを大量に消費する事が課題になっていた。

解決に向けた具体策と成果

保護者へハンカチの持参を促し、ハンカチを忘れた子のみが使用するまでになったことで、ペーパータオル使用量は3分の1程度、1日につき生徒60名で延べ180回分ほどの削減効果となった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



46. 空調システム入替えと電灯LED化でCO2削減を実現(株式会社林水泳教室)

取組の概要

プールおよび体育館の空調設備を省エネタイプの最新機器に入れ替えた。また、既設照明器具のLED化した。



取組を始めた動機・課題

設備の経年劣化、汚れ等による能力低下で、空調の効き、照明の照度が悪くなり、快適性、安全性が損なわれていた。また消費電力の効率が悪く、電気使用量とコストの負担が問題になっていた。

解決に向けた具体策と成果

最新の施設暖房システムへの入れ替えおよび照明のLED化により消費電力が約1/6となり、光熱費およびCO2削減を実現した。

該当するSDGs目標
(3つまで)



47. 遊休農地を活用した野菜作りで地域に貢献(株式会社林水泳教室)

取組の概要

茅ヶ崎市内の遊休農地を利用して、社員自ら野菜作りに取り組んでいる。収穫した野菜はスポーツ施設を利用するお客様に提供している。



取組を始めた動機・課題

地域に点在する遊休農地の活用して、施設に通う子ども達の農業体験の機会の創出と作った野菜を地域の方々に提供する事で企業価値向上を図りたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

年間を通して季節の野菜作りを行っており、収穫した野菜は利用者へ安価で販売し、好評を頂いている。また野菜は社員への賄いとしても利用している。

収穫イベントを実施し、親子での農業体験と食育にもつなげることが出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



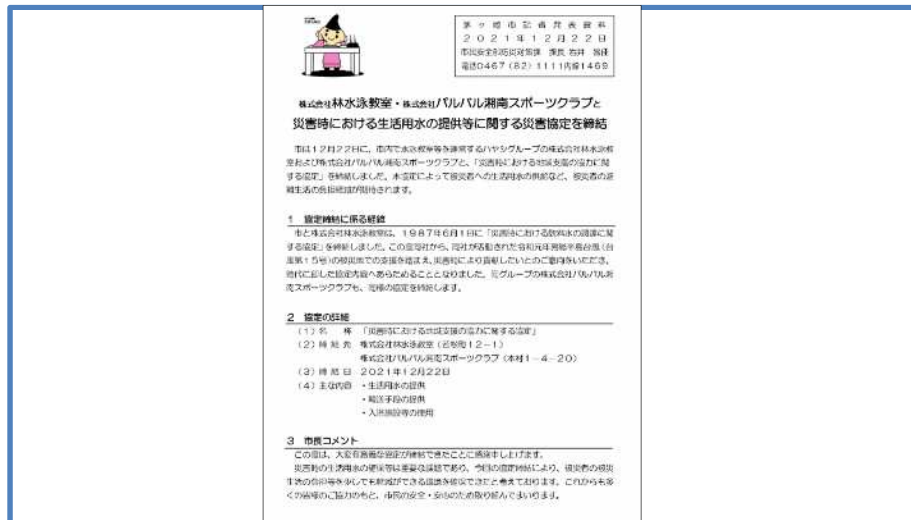
48. 茅ヶ崎市と災害時応援協定を締結(株式会社林水泳教室)

取組の概要

地元茅ヶ崎市と災害時応援協定を締結し、被災者の被災生活の負担等を少しでも軽減できる環境を整備した。

取組を始めた動機・課題

市と災害時応援協定を締結して35年が経過し、時代に即した内容に改める必要性を感じていた。



茅ヶ崎市と株式会社林水泳教室
2021年12月22日
市民安全防災推進課 美濃 若井 様
電話0467-(仮2)-1111内番1468

株式会社林水泳教室・株式会社バババ湘南スポーツクラブと
災害時における生活用水の提供等に関する災害協定を締結

市は12月22日に、市内で水泳教室等を運営するバババグループの株式会社林水泳教室および株式会社バババ湘南スポーツクラブと、「災害時における被災者の生活支援に関する協定」を締結しました。本協定によって被災者への生活用水の供給など、被災者の被災生活の負担軽減が期待されます。

1 協定締結に係る経緯
市と株式会社林水泳教室等は、19月7月6日に「湘南地区における飲料水の確保に関する協定」を締結しました。この協定から、両社が活動された令和元年度後半(自衛隊1号館)の被災地での支援を踏まえ、両社により貢献したいとのご意向をいただき、時代に即した協定内容へあらためることとなりました。本グループの株式会社バババ湘南スポーツクラブも、協定の協定を締結します。

2 協定の経緯
(1) 名 称 「湘南地区における被災支援の協力を促進する協定」
(2) 締 結 先 株式会社林水泳教室 (名称 12-1)
株式会社バババ湘南スポーツクラブ (名称 1-4-20)
(3) 締 結 日 2021年12月22日
(4) 主 体 等 ・生活用水の提供
・被災者への提供
・入浴施設等の使用

3 市民コメント
この日は、大変有意義な協定の締結であったこと感謝申し上げます。
災害時の生活支援の確保等は重要課題であり、市との連携強化により、被災者の被災生活の負担を少しでも軽減することができる協定を締結できたと喜んでいます。これからのさらなる協定の強化に協力いたします。市民の安全・安心の向上に努めてまいります。

解決に向けた具体策と成果

2019年に他県へ被災地支援に赴いた活動を踏まえ、市と支援内容を協議し、系列施設を加えて再締結した。締結を機に設備・マニュアル等の整備を行い、危機管理体制を見直す機会になった。また社員の防災意識が高まり、救命救急の資格取得にもつながった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



49. 安心安全な学童送迎で子育て世代の就労を支援（株式会社林水泳教室）

取組の概要

子どもの予定に合わせた細やかな運行計画の策定と保護者への事前連絡で、送迎時のトラブルを解消した。

取組を始めた動機・課題

バスの乗り遅れや場所の間違えなど乗降時のトラブル発生時に保護者と連絡が取れず、適切な対応が出来ない状況の改善が問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

各学校の予定をリサーチして予定表を作成し、保護者へeメールで個別に送迎時間と場所を知らせる方式にした。スタッフ間の運行チェック体制を強化し、安全な運行に加え安心とホスピタリティをサービスの付加価値として提供可能となった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



50. 学童のアクティビティーをSDGsで楽しく学ぶ(株式会社林水泳教室)

取組の概要

学童のイベントアクティビティーに芋ほり、海ゴミアート制作などを取り入れる事で、子ども達がSDGsをわかりやすく身近に感じられるようにした。



取組を始めた動機・課題

子ども達へSDGsを説明しても、座学ではなかなか理解が進まず課題となっていた。小さい子どもでもSDGsを身近に感じられるよう、保育プログラムに組み込んでみたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

芋ほりでは食育に加え、地産地消で移動が少ない事でのCo2削減や、海ゴミからアートへの変化など、身近な事からSDGsを考え参加できることが伝えられた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



51. 外国人教師による子どもへの不適切な対応の解消(株式会社林水泳教室)

取組の概要

外国人教師への研修・ミーティングにより、子どもへのハラスメント・虐待など不適切と誤認されるケースの解消に取り組んだ。

取組を始めた動機・課題

先生自身は臆かしているつもりでも、子どもの感じ方によっては言葉遣いや、態度がハラスメントや虐待と取られかねない事案が起きており問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

外国人教師へハラスメント・虐待に関する教育研修を強化し、子どもへの対応の改善を図った。また、普段の子どもの様子や日常会話から、各家庭内での虐待等の問題を発見する事へも注意を払っている。

該当するSDGs目標
(3つまで)



52. 給水機の紙コップ廃止で紙使用量を削減(株式会社林水泳教室)

取組の概要

フィットネス施設の給水機での使い捨て紙コップの提供を廃止し、マイボトルの持ち込み利用に移行した。

取組を始めた動機・課題

利用者向けに設置している給水機で紙コップを提供していたが、使用済み紙コップのゴミ処理が問題になっていた。



解決に向けた具体策と成果

紙コップの設置を止め、利用者へはマイボトル、マイカップでの給水をお願いした。ゴミの削減に加え、経費の削減にもつながった。

該当するSDGs目標
(3つまで)

